



平成18年度障がい者歯科保健医療推進事業  
美唄地区障がい者団体等との連絡協議会

10月25日(水)午後6時30分より「ホテルスエヒロ」

において、障がい者歯科保健医療推進事業美唄地区障がい者団体等との連絡協議会が開催されました。

当日は美唄歯科医師会会員、そして中山 司空知保健福祉事務所主任技師・安田昌彰市保健福祉課部長・安藤 淳美唄身体障害者福祉協会理事・空知圏域障害者総合支援センター「パーチェ」古田真知子氏にご出席いただきました。

まず平専務理事より、美歯会の障がい者協力医が現行の1名から3名に向かっていること、障がい者患者受診時の流れを記したフローチャートが確立し歯科医師会HPに紹介されていることおよび紹介先として岩見沢労災病院歯科口腔外科とコンタクトを持ったことなどについての報告がありました。

出席された団体各氏からは、今年度は障がい者からの治療についての相談はほとんどなかったこと、各施設における口腔ケアについての現状、中山先生からは空知地区における個別在宅訪問・集団施設訪問についての現状報告がありました。

その後、孫理事の進行により協議に入りました。そのなかで一番の問題は、受入先である我々美歯会の体制が未だ各機関さらに市民に周知徹底されていない点であり、各施設における健康教育・保健指導も含めた今後への取り組みについて、さらに関係各機関の強いネットワークの確立などが論議されました。

歯科医師会としては障がい者歯科治療への取り組み体制の宣伝および口腔ケアへの啓発を各機関、そして市民にさらにアピールしていくことが今後の検討課題であると思われます。会終了後懇親会が行われました。

(滑川貴彦記)



### 上・西美唄健康まつりに参加

本事業は、従来の美唄市中心で開催されている社協主体のふれあいまつりとは異なり、地域重視密着型地域展開開放事業として美唄市と保健センターが国保連合会の支援を得て、その地域の老人クラブ・保育士・農政係の方々と糾合し、組織化して行って三年目の事業である。

具体的内容としては、各種体操を加えた運動、

ご汁・大黒豆おにぎりなどじかにふるまい食事の大切さを訴える、血液サラサラ検査を行うなどメタボリックシンドロームに的を絞っての健康啓発を中核に据えている。

当会は8月末に歯科ドック開催の要望を受け、急速トライアルケースとしての参加にもかかわらず45名の被験者を得て、大盛況であった。

口臭検査・カリエスチック (RD検査)・咬合力検査の3つを歯科ドックの検査として行った。

地域の特徴からか、高齢者かつ義歯装着者が多いように感じた。勿論一番重要な診査は視診であり、前歯歯肉の状態から、歯肉炎・歯周炎を疑う人は結構みられ、総義歯装着者で顎位のあきらかに低い方・白歯人工歯の磨耗が顕著な方・容貌が極端に老人然としている方などにはご指導・ご注意申し上げることができた。

今回歯科の参加により、明らかにより活気のある事業となったと思う。

その他の催しにもさらに工夫の余地があり、やり方次第では今後多に期待できると感じた。

(小森英世記)

